

## 主催者挨拶

神奈川大学 21 世紀 COE プログラム

拠点リーダー 福田 アジオ

皆さんよくいらっしゃいました。

私は神奈川大学 21 世紀 COE プログラムの拠点リーダーをしております福田アジオと申します。

ご承知のように、21 世紀 COE プログラムは、文部科学省が施策の目玉商品の一つとして打ち出した大型の大学支援策です。大学院博士課程を持つ大学に対して、世界的な研究拠点をつくるための構想を募り、その優れた課題に対して 5 年間大型の補助金を出して、その拠点形成を支援するというものです。2002 年度から開始されました私共の「人類文化研究のための非文字資料の体系化」は、幸いにして、激しい競争をかいぐり、2003 年度に採択されました。現在 4 年目を迎えております。最終年度である来年度には、世界的研究拠点としての姿を明確にした研究成果を示さなければなりません。

私共は、昨年 11 月に第 1 回国際シンポジウムを開催しました。この会場にもそれにご出席いただいた方も大勢おられることと思います。昨年の第 1 回シンポジウムは、私共の課題に関連する研究を行って、すでに大きな研究成果を挙げておられる方々をお招きして、その方法や成果を発表してもらい、私共のプログラムの内容形成に取り込ませていただくという虫の良い考えに基づいて企画されました。その密かなる計画は大成功で、世界的な研究者から多くのことを学び、私共のプログラムの研究活動を大きく、そして広くすることができました。

そして、今回の第 2 回国際シンポジウムは、いよいよ研究成果をとりまとめることが視野に入ってきた 4 年度目に開催するものです。今回は、私共のプログラムの研究成果について、その構想や展望、あるいは成果の一端を披露して、それぞれの分野の先進的な研究者の皆様からコメントをいただくという性格のシンポジウムです。ご指摘いただいたことを活かして、最終成果を取りまとめたいと考えております。私共のプログラムは、図像、身体技法、環境・景観という三つの非文字の世界を対象に、その資料化と体系化、すなわち情報発信を目指しております。現時点ではそれぞれの課題の進捗状況が異なります。そのため、この二日間のシンポジウムもセッション毎に異なる様相を示すかと思いますが、ご了解いただきたくお願い申し上げます。

最後に、ここにご出席いただきました皆様に改めてあつく感謝申し上げます。二日間の発表・コメントそして討議を通して、人類文化を理解する際の非文字資料の重要性、可能性について理解を深めていただけることを願っております。そして、私共のプログラムの内容について積極的にご注文いただきたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

有り難うございました。